

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4110212638
法人名	医療法人 森本病院
事業所名	グループホーム かもめ
訪問調査日	平成20年1月18日
評価確定日	平成20年2月26日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4110212638
法人名	医療法人 森本病院
事業所名	グループホーム かもめ
所在地	佐賀県唐津市坊主町445番地5 (電 話) 0955-79-9120

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年1月18日	評価確定日	平成20年2月26日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人,	常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋(準防火)造り 1階建ての1階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有 (償却期間 5年間) 1年内 80% 3年内 40% 2年内 60% 4年内 20%
		保全措置	退居される時に入居期間に応じて返金。 入居期間が5年以上過ぎた入居者から再度、一時金を預ることはありません。
食材料費	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	5 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 76 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森本病院・田辺歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は住宅や官公庁など立ち並ぶ街の中にあり、近くの小学校に通う小学生などの声も聞かれ地域での生活を感じることが出来る。職員の優しい声かけとゆっくりした時間の流れのなかで、入居者の表情は明るく笑い声も聞かれる。1日1回でも笑顔が見られるようにとスタッフは理念に沿ったケアに努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価の結果を全職員に配布し、一人ひとりが確認し改善点について話し合い、皆の意見をまとめて改善を行った。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が全スタッフに自己評価の意義を説明している。今後、一人ひとりの考え方をアンケートなどを通して確認する予定としている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、市の職員・地区の役員の方や家族の方などが参加され、家族からの質問も活発で話しやすい会議となっている。今年度初めて、地域の餅つき行事へ運営推進会議のメンバーの方の協力で参加することができた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会・ホームの行事・入居者の誕生日に行う誕生会などには、家族へ出席の声かけを行い、それらの機会を利用して家族の意見を聴くようにしている。また、入院や退所後も心配ごとの相談に来られることもあり、話し合いながら一緒に考えるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の集まりでは、介護保険制度に関する説明の講師を引き受け、また、地域の方が参加しやすいような夏祭りの実施方法などの検討・一人暮らしの方への働きかけなど地域の状況に合わせた活動に努めており、少しずつ地域との関係が広まってきている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者・職員ともに毎日笑顔で安心して過ごせるように、一昨年理念の見直しを行い、皆で話し合い「毎日笑顔で楽しい我が家」の理念をつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やホール・各自のロッカーなど、目につくところに掲示し日々のケアの中で意識して取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の餅つき会に参加したり、事業所の夏祭りを土曜日の午後に行い、ひとり暮らしの高齢者の招待や、地域の子どもたちの参加など、地域との交流が広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は、職員全員に配布し改善策を話し合い、改善に取り組んでいる。今回の評価については、管理者より職員全員に自己評価の目的を伝え、サービスの質の確保に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の案内は、入所者家族全員に配布され多くの家族の参加がある。事業所の報告だけでなく、家族の意見も多く聞かれ、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は市役所に近い場所にあるため、入居者と一緒に相談に行ったり、判断に迷うことなどすぐに担当者へ相談するなど、話しやすい関係を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所独自の新聞を年1回発行している。個別には、担当スタッフより利用者の暮らしぶりや変化・問題など近況報告として、2カ月に1回手紙で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にできるだけ話をするようにし、日ごろから相談しやすい関係づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応することが重要と考えられ、職員の異動はない。本人の都合による離職や新しい職員の採用は、家族会で説明している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回勉強会を実施、外部研修は職員が順番で参加できるようにしている。月1回のミーティングで研修報告も行われている。介護福祉士や介護支援専門員の資格取得希望者に対する支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に入り、情報収集や他の施設見学など行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の病院から入居される方が多く、病院に面会に行き顔なじみになることやホームのおやつ時間に遊びに来てもらい一緒に過ごす事で徐々に慣れて移行できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事のメニューを考えたり、料理を習ったりしながら暮らしの中で支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活の様子を知る為に、家族に協力してもらい、家族・本人・居室担当者でアセスメントシートを作成し本人にとっての最良の暮らし方を考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者の為の会議には、家族に参加の声かけを行い、スタッフだけではなく、主治医や家族の意見が反映されるように工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のミーティングで話し合い、定期的な見直しと共に状態の変化がある時には随時見直しを行っている。計画の実施の確認や効果・評価も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	盆・正月には家族へ外泊の声かけを行い、遠方からこられて、ホテルに宿泊される家族には日程を調整し一緒にホテルで過ごせるように援助している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望のかかりつけ医を受診している。家族と話し合いながら、受診介助も行っている。診察の結果については、随時家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、ホームの指針としてホームでは対応しないと取り決めがあり、入居時に家族へ説明されている。入居後は状態に応じ、ケアの方法など主治医・看護師・家族・スタッフで連携を持ち話し合いがもたれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉掛けは、丁寧で利用者を大切にされている。誘導時も、さりげない声かけが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて待つことを大切にして、一人ひとりに声かけを行いながら、その日の本人の気持ちにより自由に過ごせるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者と相談しながら決め、食材の買物や調理・盛り付けも一緒にしている。嚥下の状態を見ながら、食べやすくするような調理の工夫も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望にあわせながら、自由に入浴できるようにしている。拒否されるときはしばらく時間をおき、再度声かけするなど、気持ちを考えながら対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの好きなことを理解し、浪曲やぬり絵・編み物など好きなことが出来るように支援している。手伝いができる方は、食事の用意やごみ捨てなどできる手伝いをしてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩・ドライブなど、希望に添って出かけられるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口には鍵を掛けずに、職員の見守りで、外に出られる人にはさりげなく付いていき危険が無い様に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡体制・マニュアル作成を行っている。避難訓練を実施している。	○	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し事業所だけでなく地域住民の参加や協力を得た避難訓練の実施も期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分管理が必要な方は、1日の摂取量が把握できるようにしている。栄養バランスについては、希望を取り入れながらカロリー計算を行い、適切なカロリー摂取ができるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には皆で作った季節の絵がかけられ、居間は一面ガラスで明るく、庭には季節の野菜が植えられ外が眺められる。廊下には、高さを工夫した椅子が用意され好きな場所に座って過ごす事が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋への持ち込みは自由で、たんすや写真・椅子など持ち込まれている。		